週刊版ニュース

◆ お得な情報やためになる情報も掲載。毎週発行の情報紙です。お見逃しなく！ ◆

2020年
《1月4週号》
No.697

個人宅配・なかよし個配・手数料のご案内

お一人で…
個人宅配
KOJIN TAKUHAI

お一人でも商品配達をご利用できます。個配手数料は1回286円（税抜価格）（くらし応援サポート配達手数料減額サービスを受けた場合は96円（税抜価格））。

お2人で…
なかよし個配
NAKAYOSHI KOHAI

ご近所、お友達2人でご利用できます。個配手数料はお一人1回143円（税抜価格）。

3人以上のグループで…
共同購入
KYODO KOUNYU

ご近所や職場、お友達3人以上でつくる"班"にまとめて商品をお届けします。

配達手数料は無料!

拠点受け取り
コープハウス
COOP HOUSE

指定の場所に商品を取りに来ていただくシステムです。
※青森、弘前、むつ地域のみとなります。

手数料は無料!

個人宅配・なかよし個配の手数料のご案内

	個人宅配[1名]		なかよし個配[2名]		班[3名以上]
	個配手数料（配達ありの場合）	配達商品なしの場合	個配手数料（配達ありの場合）	配達商品なしの場合	配達手数料
通常利用	286円	96円	143円	96円	無料
くらし応援サポート（子育てサポート・介護者サポート・高齢者サポート・障がい者サポート・復興支援サービス）	96円	96円	96円	96円	

※価格は税抜価格となりますので別途消費税がかかります。
※商品のお届けが無しの場合でも、96円手数料（税抜価格）がかかります。
※ご利用高に応じた個配手数料減額サービスは変更になる場合があります

くらし応援サポートは、専用申込用紙に必要事項を記入後、減額サービスを受けることができます。配達担当者、又は下記へお問い合せください。

コープあおもり 共同購入部
0120－505034

くらし応援サポート
個配手数料減額サービス

子育てサポート
母子手帳交付日から、お子さんが6歳の誕生日を迎える週までご利用いただけます。

介護者サポート
同居のご家族または組合員本人が要介護状態区分1から5で、介護保険被保険者証または要介護認定・要支援認定結果通知書をお持ちの方がご利用いただけます。

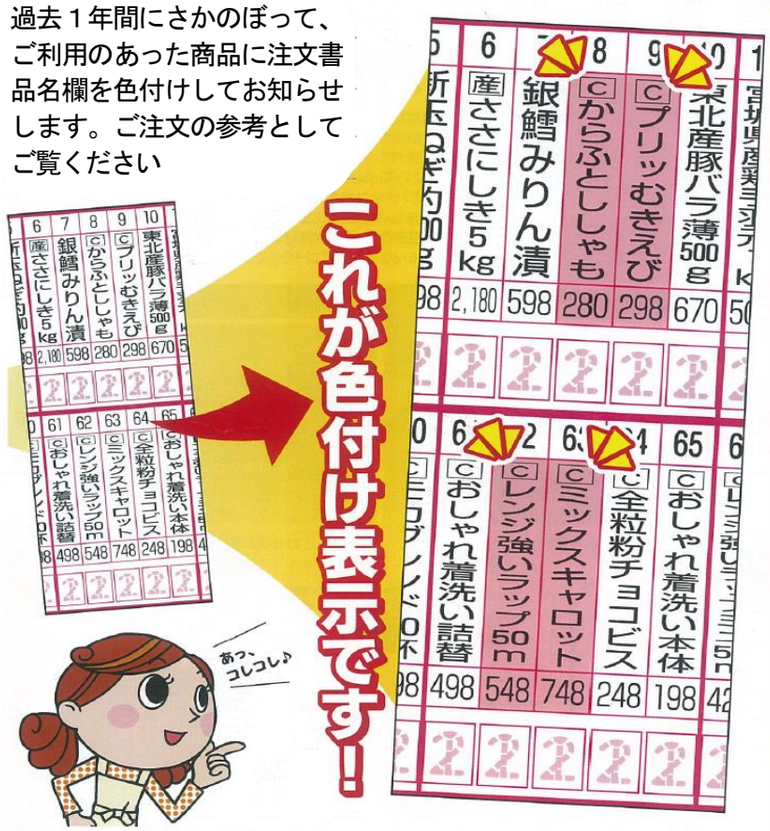
高齢者サポート
70歳以上で、お一人または、ご夫婦のみでお暮らしの方がご利用いただけます。

障がい者サポート
同居のご家族または、組合員本人が障がい者手帳をお持ちの方で、お買い物にご不便されている方がご利用いただけます。

復興支援サービス
東日本大震災被害により家屋が全半壊している方、福島第一原発事故の影響を懸念し福島県から避難している方が対象です。

注文書を便利にご活用ください！

過去１年間にさかのぼって、ご利用のあった商品に注文書品名欄を色付けしてお知らせします。ご注文の参考としてご覧ください



※なお利用登録商品は、色付け表示しません。下段の「利用登録商品」欄でお届け商品をご確認ください。

◆ご注文専用ダイヤル

0120－768－082
電話番号はお間違いなくおかけ下さい

受付時間
月～金　9：00　～21：00
土　9：00　～11：30

※注文の締切時間は、商品お届け日翌日の 11：30 まで。土曜日の 11：30 以降と日曜日の注文受付は行っておりません

FAX 0172－62－4320
※商品お届けの翌日 10：30 まで

◆ご注文以外の連絡先

＊青森センター　0120－373－122
＊弘前センター　0120－084－466
＊浪岡センター　0120－280－091
＊十和田センター　0120－126－236
＊むつセンター　0120－122－373
＊八戸センター　0120－286－003

◎受付時間　月～金　9：00　～19：30
※上記以外は留守番電話での受付となります

co-op

のむヨーグルト

950ml

本体 **178円**

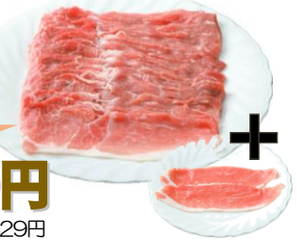
8%税込192円

国産生乳を20%以上使用した、すっきりと飲みやすいのむヨーグルトです。

■ Week46ページ・裏表紙でご案内 No.664

WeeK2月1週号からのおすすめ

産直 **こめっこ地養豚 モモスライス（増量）**



350g+30g

本体 **398円**

8%税込429円

厚さ約2㎜にスライス。

■ Week表紙・26ページでご案内 No.1

▲共同購入の商品案内「Week」(ウィーク)でのおすすめ商品です。店舗では取り扱いのない場合があります

【シリーズ 第75回】

被災地はいま

みやぎ生協・コープふくしまから〝宮城・福島のいま〟をシリーズでお伝えします

～ まち・住まい・コミュニティ ～ ゆるやかなコミュニティが息づくオープンな集会所

◆亘理町の西木倉(にしきぐら)災害公営住宅は、阿武隈川と鳥の海に挟まれた荒浜地区にあります。3棟の集合住宅の周囲には住宅や商店がゆったりと建ち並び、のどかな風景が広がっています。牧野かつ江さんは毎週月曜から金曜の午前中、地域の人が気軽に集まれるように集会所のカギを開け、お茶を準備して待っています。自治会などから託された役目があるわけではなく、まったくのボランティアです。「何をするわけでもないの。みんなでお喋りするだけ」。年に1回ずつ芋煮会や夏祭りなど交流の場はありますが、「普段からみんなと仲良くやっていきたい。自分にとっても良いことだから」と牧野さんは言います。

◆みやぎ生協のふれあい喫茶(※)もその一つです。きっかけは亘理店でふれあい喫茶を体験し、当時住んでいた仮設住宅での開催を要望したことでした。生協との付き合いは公営住宅に入居してからも続き、ふれあい喫茶を楽しみに荒浜地区まで足を運ぶ参加者がいるほどの人気行事になっています。公営住宅のなかには集会所の運営管理が負担になって、あまり利用されていないケースもあります。仮設住宅では常に開放されていた集会所が、公営住宅ではカギのかかった状態になることを憂慮する声もありました。そうしたなか、集会所を開放し、人の集まる機会を設けている牧野さんの試みは、とても貴重であることが分かります。佐藤美智子さんは以前住んでいた場所に自宅を再建しました。ふれあい喫茶に参加したきっかけを「荒浜に戻ったけれど昔の行政区も昔いたご近所さんもいなくなった。地域になかなかなじめないで、どこを頼りにしていいか分からなかった。そんな時、生協で喫茶をしていると聞いて来てみた」と話してくれました。

◆西木倉災害公営住宅でのふれあい喫茶、毎週月曜から金曜までの気軽な集まり、どちらも入居者だけでなく近隣の住民や少し離れた地域からの参加があります。「外にでて人と話をしよう」「自分の興味のあることに参加してみよう」が動機です。震災前の集落をベースにしたコミュニティとは異なる、人と人のつながりから生まれるコミュニティがそこにはあります。行政区など、場所のコミュニティが固まるにはまだ時間がかかりますが、人の〝気持ち〟をつなぐゆるやかなコミュニティはしっかりと広がり、浸透しています。

◀ ふれあい喫茶に参加した皆さん。前列左から2番目が牧野かつ江さん、最後列左端が佐藤美智子さん。

◀ 月1回開催のふれあい喫茶。9月は、被災された方々の手作り団体、「さくら団地ゆめ工房」代表の市川一子さんを講師にクリスマスカード作りをしました。

(※)被災された方を対象に、仮設住宅や災害公営住宅の集会所、店舗や組合員集会所などで、一緒にお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ活動

平川合同センターの電気は地元の「津軽バイオマスエナジー」でつくられた電気に変更しました。

■平川市、中佐渡にあります㈱津軽バイオマスエナジーは平川合同センターから車で10分程度の距離にあります青森県初の木質バイオマス発電所です。

主に津軽地方の間伐材やりんご栽培の過程で発生する剪定枝を使用した発電所です。

■現在の発電出力は約6250キロワット。平川市の全世帯（約1万4千世帯）の年間使用量以上の発電量となります。その発電事業は、津軽一帯から間伐材を集め、自社工場内で燃料チップに加工。チップを燃焼させた水蒸気でタービンを回し発電するというもの。1日210～240トンの燃料チップを作り、年間では7.2～7.4万トンの間伐材を使います。主な供給先は、平川市役所や体育館といった公共施設。当生協への電力供給を依頼しておりましたが、ようやく目処がたったため、10月1日より平川合同センター分のみ供給開始となりました。

■木質バイオマス発電も木を燃やすときには二酸化炭素が発生します。しかし、その二酸化炭素は木が成長するときに大気中から吸収したものなので、大気中の二酸化炭素の量は変化しないという「カーボンニュートラル」という考え方が当てはまるため、木を燃料にすることは二酸化炭素の排出を抑え、地球温暖化防止に貢献することになるのです。まさに、地元でつくられた電気を地元で消費する【電気の地産地消】。平川合同センターで使用している電気は、より環境にやさしい電気なのです。

地産地消 地元生産・地元消費

※→右写真はりんごの剪定枝を発電所へ持ち込んでいる様子